

[説明資料(提出ファイル)] 発明・工夫作品コンテスト 製作の動機または目的, 利用方法, 作品自体やその製作過程で工夫したことを, 文章, 写真, 図などで説明。この用紙1枚に記入し, PDFに変換した後, web提出フォームにて提出する。

個人・グループ名	奥山 尚史 三田 航希 今林 司 上田 大晟 技術科教育第2ゼミナール 3年	大学名	北海道教育大学旭川校
作品名	木製シューズラック	人数	4名

製作の背景

本ゼミは今年, ゼミ室の大幅な模様替えに着手した。基本的に材料加工(木材加工)を活動の中心に据えていることもあり, 木を多く用いたテーブルやロッカーの配備を行っている。

その一環として, ゼミ生が利用するシューズラックの製作に取り組んだ。

コンセプト・製作風景

技術科教育第2ゼミナールでは, 現在12名のゼミ生が活動を行っている。そのため, 12人分の靴を収納することができる棚を製作する必要があった。

そこで我々は, 一段に3人分の靴を収納することができる4段の木製シューズラックを設計し, 製作した。

まず, 大切にしたいことは, 『靴を置きたくなるシューズラック』の製作である。これまではドア付近に靴が無造作に置かれていたが, 自分から積極的に靴を収納したくなるようなデザインにすることで, 自然とゼミ室の整理整頓がなされると考えたためである。これを達成するためのアイデアとして, 耳付きの板を背板として用いることによる, デザイン性向上を行った。

また, 背板に10度の傾斜をつけたことによって, 靴の出し入れがしやすいデザインになっている。傾斜をつけたことでできたデッドスペースは, 背板の支えとなる部分に別の棚板を設けることで, 長靴などを収納することができるようにし, 活用した。

高さについても, 靴を出し入れしやすいような高さを研究し, 靴を収納する最下段の棚板が, 地面から500mmの高さになるように設計した。底板には長靴を置くことができるようになっている。

図2は, TinkerCADを用いて作成した図面である。完成形を共有したことで, 作業をスムーズに行うことができた。(図2参照)

製作にあたって, まず使用する木材の選定を行った。ゼミ室に置かれているテーブルやロッカーは, カラマツの3層パネル^(図3)が使用されている。シューズラックに関しても, 統一感を出すためにカラマツの3層パネルを使用することにした。また, 背板に用いている耳付きの板材はクルミを用いた。

塗装に関しても, 統一感を醸し出すために, クリアで塗装を施した。

今後の展望

今回の製作で, ゼミ室の雰囲気にもマッチしながらも存在感のあるシューズラックを置くことができた。しかし, 雨や冬の日など, 靴が湿っているときに収納する場合, 棚板に直接靴を置くと見栄えや寿命に影響するため, 改善が必要であると考えている。今後は, 防水の方法について調査を進め, より使い勝手の良いシューズラックに仕上げていきたい。



図1

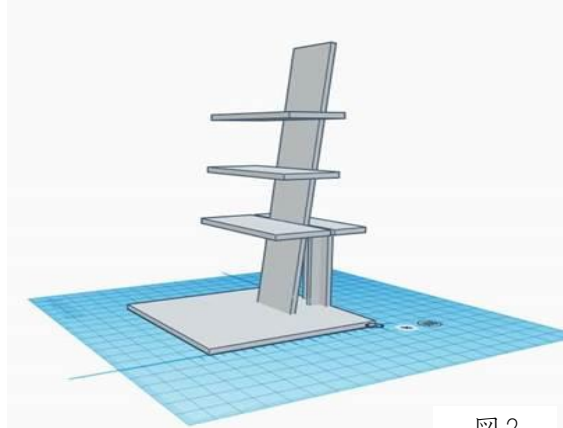


図2



図3